

〔第27回学術集会 シンポジウムⅠ〕

## 名古屋市における住民を守る活動 —母子保健の立場から—

名古屋市子ども青少年局子育て支援課

岡本 理恵

私は、行政の保健師として母子保健の立場から、新型コロナウイルス感染症への対応状況や見えてきた課題、今後の方向性等について報告させていただきました。

名古屋市においては、令和2年2月に患者の発生が確認されて以降多数の感染者が確認されており、各区保健センターの保健師はその対応に追われています。

名古屋市では、従前より地域担当制の保健師活動を展開してきており、個別支援を積みかさねつつ、担当地域の特性を理解し、地域との関係を培ってきました。このコロナ禍においても、地域との関係性も活かしながら、地道に積極的疫学調査に取り組

み、健康観察者へも丁寧に対応し、クラスター発生を抑えています。まさに、患者調査等から感染拡大予防策を展開し、住民の健康を守る予防活動の道筋を見つけていくという保健師活動の重要性が再認識されたところです。

保健師は対面での支援を中心に、それを強みに活動をしてきましたが、With CORONAの社会で、従来の保健師活動にこだわってはいは住民の健康は守れません。できないから仕方ないと諦めることなく、コロナ禍をチャンスと捉え、感染症対策と保健師活動をどう両立させていくのか、今こそ住民の目線に立ち、必要な方に必要な支援を確実に届ける活動を展開していく時だと考えています。